

4 横浜みどりアップ計画市民推進会議

(1) 横浜みどりアップ計画市民推進会議の概要

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の皆さんへ情報提供等を行うことを目的として、平成21年に設置し、平成24年からは条例設置の附属機関に位置付けました。これまでに全体会議や専門部会の開催に加え、参加市民を公募した現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価、提案を行ってきました。

横浜みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしています。

【表】委員名簿（50音順・敬称略、平成31年3月時点）

氏名	所属部会	区分	備考
相川 健志	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
網代 宗四郎	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市町内会連合会 委員
東 みちよ	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会部会長	公募市民	
池田 信彦	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
池邊 このみ	・「緑をつくる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科教授
岩本 誠	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
大竹 斎子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
加茂 千津子	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
進士 五十八	・座長	学識経験者	福井県立大学 学長
蔦谷 栄一	・副座長 ・「農を感じる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	農的社会デザイン研究所代表
長瀬 里佳	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
野路 幸子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市中央農業委員会委員
望月 正光	・「森を育む」施策を検討する部会部会長 ・広報・見える化部会委員	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授
靱山 功	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事
若林 史郎	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜商工会議所 常任参与

(2) 平成 30 年度の活動実績

ア 全体会議

全体会議、現地調査、部会での議論をもとに「横浜みどりアップ計画の評価・提案」（横浜みどりアップ計画市民推進会議報告書）について検討しました。

	開催日	主な討議内容
第 28 回会議	平成 30 年 5 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> 横浜みどりアップ計画 4 か年（平成 26 年度～平成 29 年度）の進捗状況について 市民推進会議 平成 29 年度報告書（案）について 市民推進会議 平成 30 年度の取組について
第 29 回会議	平成 31 年 1 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> 横浜みどりアップ計画の進捗状況について 市民推進会議 平成 30 年度報告書について
第 30 回会議	平成 31 年 3 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> 横浜みどりアップ計画の進捗状況について 市民推進会議 平成 30 年度報告書（案）について

イ 部会

《施策別専門部会》

横浜みどりアップ計画の事業分野ごとに、取組の内容と進捗状況について意見交換を行い、評価・提案について検討しました。

会議	開催日	主な討議内容
第 11 回「森を育む」 施策を検討する部会	平成 31 年 2 月 14 日	・「森を育む」施策の評価・提案について
第 11 回「農を感じる」 施策を検討する部会	平成 31 年 3 月 7 日	・「農を感じる」施策の評価・提案について
第 11 回「緑をつくる」 施策を検討する部会	平成 31 年 3 月 1 日	・「緑をつくる」施策の評価・提案について

《広報・見える化部会》

市民推進会議の広報誌「みどりアップQ」の編集を行いました。

みどりアップ計画の取組を実際に取材し、その課題に着目した内容を「みどりアップQ」に加えました。

市民の視点から、横浜みどりアップ計画と横浜みどり税を市民の皆さまへわかりやすく伝える方法について検討しました。

会議	開催日	主な討議内容
第 37 回	平成 30 年 4 月 21 日	・横浜みどりアップ計画のPRについて

会議	開催日	主な討議内容
第38回	平成30年 7月26日	・横浜みどりアップ計画市民推進会議広報誌 「みどりアップQ」第13号について
第39回	平成30年 11月6日	・横浜みどりアップ計画市民推進会議広報誌 「みどりアップQ」第14号15号について
第40回	平成31年 2月22日	・横浜みどりアップ計画「効果的な広報の展開」の評価・ 提案について

《調査部会》

横浜みどりアップ計画の取組を実感し、現場で活動する方々の声を直接聞くため、現地調査を実施しました。

会議	開催日	主な討議内容
第18回	平成30年 8月25日	<p><場所></p> <p>①みたけっ子田んぼ（青葉区） ②坂田農園（青葉区）</p> <p><内容></p> <p>青葉区内の保全した水田が近隣小学校の「環境学習農園」として活用されている現場と、浜なしの収穫体験を行っている現場を見学し、それぞれ農家の方々からお話を伺いました。また、山内地区センターで一般参加者と意見交換を行いました。</p>



【写真】現地調査の様子

ウ 広報誌の発行

「みどりアップQ」を3号（平成30年9月、平成31年1月、3月）発行しました。



【図】「みどりアップQ」の表紙

エ 報告書の発行

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成30年度報告書を発行します。
（令和元年6月）



【図】報告書の表紙

(3) 評価と提案の概要

※「横浜みどりアップ計画5か年の評価・提案（横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成30年度報告書）」より抜粋



計画全体として、柱ごとに数多くの取組で着実な推進が図られました。

「取組の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、計画の根幹である樹林地の指定は、小面積の指定が多くなったことや、地理的条件などにより目標の面積に到達しませんでした。丁寧な土地所有者への働きかけに努めていることを評価します。平成31年度以降における計画では、民有樹林地の維持管理助成制度が拡充されたことから、指定が後押しされることを期待します。また、より自発的に市民や企業、地域等が樹林地に携わることで、樹林地が地域に親しまれ、良好に保全されるよう、様々な支援や情報発信等に取り組むことも必要です。

「取組の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田保全奨励など、主要な取組については概ね目標を達成していることを評価します。また、農家のみならず農園の利用者の高齢化も進んでいます。様々な世代の市民が農にふれあうことができる工夫とともに、これからは、市民がより主体性をもって農に関わることができるような仕組み作りに取り組む必要があります。

「取組の柱3：市民が実感できる緑をつくる」については、民有地における緑化の助成は、目標を下回る助成件数となりました。今後は、この実績を踏まえて見直した制度が活用され、公開性や視認性が高い場所に緑豊かな空間が創出されることを期待します。

地域緑のまちづくりは、その地区ならではの緑のまちづくりを地域が主体となって進めており、計画に基づく緑化が進むとともに、緑や花の活動を通じた地域のコミュニケーションが活発になっています。今後も様々な地区で取組が進むことを期待します。

「効果的な広報の展開」については、みどりアップ計画を進めていくためには、市民の皆さんの理解が欠かせません。これまでの行政や市民推進会議が行う広報に加えて、地域の方々の自発的な情報発信が広がるように工夫する必要があります。

これからは緑の質の向上についても、もっと考える必要があります。

横浜の緑の取組は、国内はもとより国際的にも評価を受ける取組と考えます。このことにより、市民が横浜に住んでいて良かったという意識が醸成され、市民力がより強くなると思います。

横浜の市民力は強みとなりますので、より一層市民と一体となって取り組んでいただくことを期待します。



4 横浜みどりアップ計画市民推進会議

